

年間指導計画表

教科・科目	芸術科・音楽 I	単位数	2
		学科・学年・学級	普通科 第1学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・美しいものに触れ、美しいものを意欲的に探究し、創造する態度を養う ・日本の伝統音楽について、理論とともに実技を行い、理解を深める ・音楽理論、音楽史を学ぶことにより、音楽芸術に対する理解を深める
使用教科書・副教材等	<ul style="list-style-type: none"> ・MOUSA1(教育芸術社) ・篠笛、ギター

2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 音楽への関心・意欲・態度	各分野においてきちんと音楽に向き合い、自ら学び、主体的に表現しようとしているか、授業における意欲、態度を評価する。	授業態度・レポートなど	40%
b. 音楽表現の創意と工夫	多様な表現形式を理解し、自らの表現に生かしているか、単元ごとの発表により評価する。	発表・実技テストなど	20%
c. 音楽表現の技能	声、楽器を活かして表現する技能を身につけているか、単元ごとの発表により評価する。	発表・実技テストなど	20%
d. 鑑賞の能力	音楽の美しさを感じ、自分の感じたことを自分の言葉で伝えることができるか、発表、レポートにより評価する。	鑑賞態度など	20%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4	6	歌唱、合唱に親しむ	<ul style="list-style-type: none"> ・歌うことの喜び、楽しさに気付かせる ・合唱の楽しさ、美しさに気付かせる 	○	○	○	
	4~5	10	混声合唱に親しむ 西洋音楽史	<ul style="list-style-type: none"> ・混声合唱ならではの美しさ、楽しさを味わう ・西洋音楽史を学ぶことにより、現在の音楽の成り立ちや発展を知り、音楽を身近なものとする 	○	○		○
	6	4	歌唱、合唱の発表 音による音楽史の聞き分け	<ul style="list-style-type: none"> ・ホールでの発表、個々の実技テストにより、声の可能性に気付かせる ・音により時代や作曲家の違いを聞き分け、音楽を身近なものにする 	○			○
	7	8	篠笛1 オペラ1	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の伝統楽器を通して西洋音楽との違い、それぞれの良さを理解する ・オペラの成り立ち、鑑賞の方法を理解する 	○		○	○
	8	4	篠笛2 オペラ2	<ul style="list-style-type: none"> ・篠笛の演奏技術を身に付ける ・オペラを鑑賞し、味わう 	○		○	○
	9	2	ミュージカル1 創作1	<ul style="list-style-type: none"> ・オペラとミュージカルの違いを理解する ・日本の音階の構成、理論を学び理解する 	○	○		○
後期	10	6	ミュージカル2 創作2	<ul style="list-style-type: none"> ・ミュージカルを鑑賞し、味わう ・日本の音階を使った創作を行い、発表する 	○	○		○
	10~11	6	ギター1 アレンジ1	<ul style="list-style-type: none"> ・ギターの構造、歴史、奏法を学ぶ ・楽曲の構造、編曲の基本を学ぶ 	○	○	○	
	11~12	10	ギター2 アレンジ2	<ul style="list-style-type: none"> ・コード、ストローク奏法を練習し、弾き語りを行う ・グループでメンバーに合わせたアレンジを行う 	○	○	○	
	1~2	8	グループによる演奏1	・アンサンブルを練習する	○	○	○	
	2~3	4	グループによる演奏2	・グループで編曲、練習、発表を行い、表現力と鑑賞力を深める。	○	○	○	
【その他】								